



経歴

平成15年	4月	総務省採用 総務省自治財政局交付税課
平成15年	8月	千葉県総務部市町村課
平成17年	4月	内閣府政策統括官(防災担当)付 参事官(地震・火山対策担当)
平成19年	4月	総務省自治行政局自治政策課
平成19年	7月	同 自治行政局自治政策課企画第二係長
平成20年	7月	現職

「評価」の考え方はこれからの行政の基本

総務省行政評価局客観性担保評価プロジェクト室評価監視調査官 橘 清司

■行政評価局の役割

行政評価局は、政府における内部監査、自己改善や国民からの声を反映した行政の改善という政府のレビュー機能を担っている組織です。民間企業で言えば、内部監査、顧客相談に相当する機能と言えます。政府という組織であっても、不可欠な機能と言えます。このような機能の一環として、行政評価局は、中央省庁が自己評価により行う政策評価の推進・向上を図る政策評価推進機能を担っています。政策評価制度は、中央省庁再編と同時に導入され、平成20年度実績では、トータルで約7,000件の政策評価が実施されるなど定着が図られてきました。評価結果は、予算編成や政策の企画立案に反映されており、公共事業については、14年度の政策評価法施行後7年間の累計で227事業、事業費約3.9兆円の休廃止につながりました。

■政策評価の外部検証

この政策評価推進機能の中で、私が担当しているのは、中央省庁が自ら実施する政策評価を第三者の立場から点検し、課題を指摘する、いわば「政策評価の外部検証」という業務です。数千件に及ぶ政策評価書の全てについて、外形的・内容的にチェックを行い、課題を指摘し、その結果を報告書の形にまとめて公表することで評価の質の向上につなげていきます。政策評価は、客観性を高めるため、政策効果をできる限り数値化する必要がありますが、これまでの取組により、政策評価書において政策効果が具体的に数値化されている割合を平成14年度の34.2%から21年度の82.5%まで上昇させることができました。また、事業の投資効率性(事業に投下するCostに見合ったBenefitが得られるかどうか)について、評価を実施した担当者と直接丁寧な議論を行った結果、評価がやり直され、数十億円の事業費の削減につながった例もあります。

■「評価」の考え方の基本

政策評価と言うと、難しく聞こえるかもしれませんが、「評価」の考え方の基本はいたってシンプルです。ある業務について、漫然とただ進めるのではなく、この業務の目的は何か、この業務は誰に対してどのような効果をもたらすのか等について、いったん立ち止まって自己反省し、改善点があれば反映させていく、この一連のプロセスの中での「自己反省」の部分が「評価」にほかならないのです。その上で、偽らざる「自己反省」の形を文書の形にしてわかりやすく示す。結局は、自分が今まさに取り組んでいる業務の内容について第三者にきちんとわかりやすく説明することができるかということが問われているのです。

■これまでとこれから

私が総務省を志した原点は、総務省が担う幅広い政策課題の中でも特に地方自治に関心があり、その職責を担う総務省職員の働き方にありました。総務省は、中央省庁の立場にありながら、地方公共団体の立場に立ってその他の中央省庁に伍していく地方公共団体のAgentたる役割のほか、地方行財政等の制度や地域活性化等の施策の企画立案機能など地方公共団体のRegulatorの役割を担っています。これらの役割を果たしていく上で最も大事な地方自治の現場感覚を養うため、総務省職員のキャリアパスは、現場である地方公共団体で働く機会が多く与えられ、中央省庁で企画立案された制度や施策が現場でどのように動いているのかを肌で感じることができ、数度の地方赴任を経る度に任される役職もステップアップしていき、多様な職責から現場を捉えることができます(実は、中央省庁の中で唯一、総務省は平職員としての地方公共団体勤務を経験できる役所で、これが、総務省の大きなウリだと思っています。)。また、現

場に精通する地方公共団体職員とのつながりも数多くでき、公私にわたる人的財産が得られます。私は、このような総務省職員の働き方に魅力を感じ、行政のプロとして地方自治に関わっていく最高の道であるとともに、一人の人間としても自分を大きく成長させることのできる場所だと考えていたのです。

入省してから7年目が終わろうとしていますが、これまでの勤務経験を通じて、就職先として総務省を選択した自分の決断は間違っていなかったと自信を持って言えます。地方自治の業務を通してまさに私が思い描いた経験ができていますし、地方自治の業務にとどまらず、行政評価の業務にも携わることで「評価」の考え方を自分の中にきちんと根付かせる機会も得ることができました。これからの地域づくりは、行政だけが情報を握って、住民から白紙委任でまかされておけば済む時代ではなく、行政に集まった情報を積極的に公開し、NPOや住民等の地域の多様なアクターの参画を促して、相互信頼の下で共に切磋琢磨していかなければならない時代です。このような時代において、「評価」の考え方は、行政のプロとして備えているのが前提となり得る基本的な素養になってくるでしょう。

このような総務省職員としての働き方に魅力を感じる方は、是非とも総務省の門を叩いてください。きっとあなたの期待を裏切らないフィールドが待っています。



経歴

昭和58年	4月	自治省採用 自治省行政局公務員部公務員第一課	平成7年	7月	自治省財政局地方債課課長補佐
昭和58年	7月	栃木県地方課	平成8年	7月	同 大臣官房企画室課長補佐
昭和59年	4月	同 財政課	平成10年	4月	札幌市財政局長
昭和60年	4月	外務省中近東アフリカ局アフリカ第二課	平成13年	7月	国土交通省都市・地域整備局地方整備課調整官
昭和62年	8月	自治省行政局公務員部公務員第一課	平成14年	1月	総務省自治財政局財政課財政企画官
平成元年	3月	国際労働機関	平成14年	9月	公営企業金融公庫経理部資金課長
平成3年	4月	沖縄開発庁総務局企画課専門官	平成16年	4月	千葉県総務部長
平成4年	4月	京都府地方課長	平成19年	4月	同 副知事
平成6年	4月	同 財政課長	平成21年	7月	現職

総務省の魅力とは？

総務省自治行政局市町村課長 植田 浩

■はじめに

「総務省の魅力は何ですか？」
答えはいくつもあって返答に困るのですが、こう尋ねられると私はたいてい「スケールの大きさと多様性」と答えています。

総務省は、国・地方を通じた国家の根幹の仕組みづくりを所掌し、また国民の経済社会活動に密接に関わる諸制度を幅広く所管している役所です。そして、業務内容や職務上のポストはもちろん、勤務地、職場環境、出会う人々等、どれを取っても極めて多様性に富んでいます。

私自身、昭和58年に総務省(旧自治省)に入省して以来、国内外を含め、多くのポストに就き、様々な経験をしてきました。ここではそのうちいくつかをご紹介しますことによって、総務省の魅力の一部を知って頂ければと思います。

■本省での勤務

最初に現在の業務についてですが、自治行政局市町村課で地方自治法の一部や住民基本台帳法等を所管しています。

地域主権改革～明治以来の中央集権体制から脱却し、この国の在り方を大きく転換するこの大改革は、内閣の最重要課題のひとつです。我が国の将来の発展を考えた場合、国と地方公共団体を、国が地方に優越する上下の関係から、対等の立場で対話のできる新たなパートナーシップの関係へと根本的に転換し、地域のことは地域に住む住民が自ら責任を持って決めることのできる社会を作っていくなければなりません。

この改革の一環で、現行の地方自治法を抜本的に見直そうという議論を行っています。市町村課では特に住民自治や基礎自治体(市町村)に関する制度等を担当していますが、地方自治法は昭和22年に日本国憲法の附属

法典として提案・制定された法律ですし、現行の市町村制度に至ってはこれより古く、明治21年の「市制町村制」にまでさかのぼることができる制度です。120年の歴史の重みを感じながら、現代という時代に合った地方自治制度はどうあるべきかについて、鋭意議論を続けているところです。

■地方公共団体での勤務

現在のポストに就く直前は、千葉県副知事の任にありました。お仕えたのは堂本暁子前知事及び森田健作知事のお二人です。

千葉県では、障害者の権利保護等を規定した全国初となる障害者条例の制定、過激派の襲撃を契機に16年間機能停止が続いていた県収用委員会の再建、成田空港と羽田空港の連携強化、東京湾アクアラインの料金値下げ等々、その時々々の県政の主要課題に正面から関わることができました。

同じ行政といっても、地方公共団体と国とは、住民との距離感や権限の帰属、仕事の進め方等、多くの点で相異なった面を有しています。600万県民の息づかいを直に感じながら、いわゆる大統領制にも擬せられる知事という大きな権力を直接補佐する仕事は、ダイナミックであり、またその責任の重大さも実感する毎日でした。

■海外勤務

入省7年目にはスイス、ジュネーブにあるILO(国際労働機関)本部に2年間出向する機会を得ました。

ここでは仕事は100パーセント英語か仏語(ときにスペイン語)で行われます。最初は戸惑うことばかりでしたが、ILOに限らず国連事務局では語学も職業技能の一つであり、研修機関も充実しています。ILOの職場内にある語学研修所で徹底的に英語と仏語を鍛えら

れ、おかげで何とか環境にも慣れ、また多国籍にわたる同僚や友人にも恵まれて、帰国の頃には一端の国際公務員を気取っていたものです。

■皆さんへ

以上自ら経験した三つのポストについて述べましたが、これらはあくまで一例にすぎません。

“Varietas delectat”
(「多様性は喜びである」 ケケロ)
一度だけの限られた人生を如何に彩豊かに、充実して送ることができるか。総務省がその答えのひとつであることは間違いありません。是非皆さん、総務省の門を叩いてみて下さい。



千葉県県民栄誉賞授与式にて(北京オリンピックソフトボール金メダル 峰幸代選手、北京パラリンピック 車いすテニス金メダル 国枝慎吾選手)



千葉県議会にて